上海地区に伝存する日本の関係典籍について

張　暁　敏

上海古籍出版社

1842年８月29日、敗戦した清政府はやむを得ずイギリス政府と屈辱的な「南京条約」を結び、広州、福州、アモイ、寧波、上海の五つの都市を開港し、第一次アヘン戦争は終結した。これによって、軍艦、商船とともに、外国人が相次いで中国に上陸する。最初の頃に最も多く来たのはイギリス人、その次はポルトガル人とアメリカ人であった。日本人が中国にやって来たのは時期的には遅かったが、人口が増えるのは速かった。上海の場合統計によると、1870年、租界及び界外道路にいる日本人は７人しかいなかったが、1880年に168人に増え、三位にのぼり、1885年に595人、二位になり、やがて1915年常駐人口は既に2000人を超え、一位になった。その後も上昇の趨勢にあった。太平洋戦争が勃発して、一度９万人に昇った時期もあった。上海に数多くの各種類の日文文献が残り、現在でも上海の数々の文化機構と個人の手には大量の日本語文献が保存されている。

上海図書館を例に見ると、上海図書館は大量の旧日文文献を所蔵している。最近出版された『上海図書館館蔵旧版日文文献総目』の統計によると、上海図書館の所蔵する1949年までに出版された各分野の旧日文文献は８万余種にのぼり、そのうち90パーセントは各種の図書で、残りの10パーセントは日本語の雑誌や正式に出版されていない印刷物である。これらの館蔵旧文献の多くは19世紀後半から20世紀前半にわたって日本の駐在機構や日本人が上海で開いた様々の学校、また図書館で所蔵されていたもので、中には比較的有名な上海日本キリスト教青年会、上海日本横浜正金銀行、共栄会中央事務局、上海日本近代科学図書館、上海日本児童図書館、南満州鉄道株式会社図書館、上海日本商業学校、上海日本尋常高等小学校、上海第一、第二、第三、第四日本国民学校などがある。この他にも、有力な日本の各企業がかなり多くの日本語図書を残した。

上海図書館が館蔵する旧日文文献の内容は極めて豊富である。図書分類法でこれらの旧日文文献の中で数の多い文献から云うと、経済類、文学類、歴史類、政治類等の種類がある。経済類の文献は最も多く、これは近代日本による中国への政治的浸透、軍事上の侵略、経済の拡充と深い関係がある。館蔵する旧経済類文献を見ると、その内容は当時の経済生活の各分野に渉り、文献の形式も多様である。図書の他に、特定テーマの報告書、年鑑年報、企業要覧、経済指南、統計資料の集成などがある。経済類の文献は経済学、経済史、経済地理、世界経済、国際経済関係、中国経済、日本経済と欧・米・アフリカ各国の経済、経済計画、会計、審計、労働経済、物資経済、企業経済、農業経済、貿易経済、国家財政、貨幣、金融、

銀行、保険などあらゆる経済の分野に渉っている。近代以来日本人の数が急激に上昇したことをきっかけに、上海には数多くの日文図書館が現れ、大量な日本文学作品を所蔵していた。例えば『万葉集』は、約60種類の違う版があった。『源氏物語』、『岩波講座』、『芥川龍之介全集』、『武者小路実篤集』、『漱石全集』（夏目純一編）等の日本文学の代表作は全部揃っている。上海図書館が所蔵する旧日文文献の中で、上海の歴史についての文献、中国の辺境地理、中国の地方史誌類は文献として最も価値の高いものである。上海の歴史に関する文献は主に二つの部分に集中している。

一つは租界と日本人居留民の文献、例えば『上海共同租界法規全書』、『上海日本人各路連合会の沿革及び事跡』、『上海居留民団三十五周年記念誌』など。もう一つは上海の「一・二八」と「八・一三」事変を直接に反映した文献、例えば『上海激戦十日間』、『（昭和七年）上海事変』、『上海事変志』、『上海事変写真帖』、『上海事変戦記』、『上海騒擾記』等。地方史誌の文献では、東北、内蒙古、また台湾に関する文献はそれぞれ数十種あり、例えば『台湾案内』、『台湾誌』、『台湾事情』（昭和六年版、昭和七年版、昭和十三年版）、『台湾治績誌』、『台湾島之現在』、『台湾文化論叢』、『台湾植民政策』、『台湾植民発達史』、『台湾統治概要』、『台湾歴史考』、『南満州写真帖』、『南満州主要都市及び其の背後地』、『満蒙講座』、『満蒙都邑全誌』、『満蒙権益要録』、『満州の開拓』、『満州国有鉄道沿線及び背後地各縣概況』、『満州国境問題』、『満蒙血的清算』、『満州国視察記』、『満州開拓年鑑』、『満蒙新国家事情』、『満州実録』等である。特に言及すべきは、これらの文献の中に、中国辺彊地理に関する文献が、チベット、新彊、雲南、海南、東北など国境にある省を含めて極めて広い地域に渉っているということである。例えば、『チベット・過去と現在』、『チベット旅行記』、『チベット征旅記』、『チベット探険記』、『西康チベット踏査記』、『新彊紀行』、『左宗棠の新彊問題』、『支那彊域史』、『支那の蒙古』、『東蒙事情』、『支那辺彊視察記』、『支那辺彊概観』、『雲南省事情』、『支那黒竜江報告書』、『蒙彊資源経済』、『満蘇国境烏蘇里江流域調査書』などがあり、これらの本は近代日本が中国全土にわたる野心を持っていた事を反映している。

上海図書館所蔵の最も時期の早い日本語文献は江都玄斉著の『古今名人棋経選粋』である。この本は青黎閣により、寛政四年（1792）に出版され、全書は龍、亀、鳳、麟の四巻に分かれている。内容は囲碁の実戦棋譜である。また、寛政九年（1797）に京都書林より出版した、六巻にわたる弗原喜兵衛等が著した『東海道名所図会』、他に『伊勢参宮名所図会』、『江戸名所図会』、『金刀比羅宮風光図会』、『木曽路名所図会』など線装、木版、挿し絵入りの古代日本の地理書は、みな日本の風土、人情、物産、名所古跡などを詳しく記載したもので、高い学術的な価値をもっている。

このほかに、上海図書館はまた数百件の日本古写経を所蔵しており、中には珍しい物もあり、例えば『光明皇后写経』などがあり、これらの写経はまた更なる整理を必要としている。

上海図書館以外にも、上海檔案館、復旦大学、華東師範大学や、また上海辞書出版社図書館などの出版社蔵書機関まで、多かれ少なかれ日本刻本の漢籍と旧日文の文献を所蔵している。上海辞書出版社は各種類の和刻本漢籍を38種所蔵している。和刻本の漢籍は主に以下のものが挙げられる。

唐六典（三十巻）　唐玄宗李隆基著、李林甫注、明正徳十年（1515）刻本、日本天保七年再刻

圣済総録（二百巻）、宋政和中著、日本文化十三年東都医学活字本、元大徳本によって校印

医心方（二十巻）、日本康頼著、日本安政六年写刻本

金匱玉函要略方論疏義（六巻）、日本喜多村　直寛士栗著、日本文久紀元学訓堂聚珍版

全唐詩逸（三巻）、日本上毛河世寧編纂、男三滅、池桐孫、下田衡校正、日本天明八年抄本

廣韻五巻、（宋）陳彭年等再修、（清）黎庶昌編集、清光緒古逸叢書遵義黎氏、元泰定本景刊により

黎氏家集、十五種四十巻、（清）黎庶昌編集、清光緒十四、十五年　黎庶昌日使署写刻本（その中に丁亥入都紀程、千家詩注は活字版）

上海地区に収蔵する各時期の和刻本漢籍の状況については、『中国館蔵和刻本漢籍書目』（王宝平編）の統計によると、上海地区に和刻本漢籍を最も多く収蔵しているのは上海図書館で、各類の和刻本古籍313種を所蔵している。その次に多い順からいうと、華東師範大学図書館（276種）、復旦大学（120種）、上海師範大学（58種）、上海辞書出版社（38種）、上海中医薬大学（27種）である。また、上海の多くの各種文化機関と個人蔵書家の処にも、若干の和刻本漢籍が保存されていることも推測できる。

上海檔案館には数多くの上海地方歴史書類が所蔵されている。そのうち約4000件は日本語の文献で、内容は主に租界時期の歴史書類と抗日戦争時期の日本語の手紙、電報などの書類と正式に出版されていない日本語の印刷物であり、これらの資料は今後整理してから発表されることが期待できる。

復旦大学図書館も四、五万種の旧日本語文献を所蔵している。しかし様々な原因により、良好な開発と利用はできない状態である。似たような状況はその他の図書関係の機関にも多少存在している。

日中両国は一衣帯水の隣邦で、同じアジアの漢字文化圏に属している。両国の特殊な地縁、政治、文化、歴史関係によって、両国の文化典籍はお互いの国に良好に伝存することができた。この種の伝存は極めて密接な、相互連動性を持っている。このような文化的な伝存を深く研究することは、日中両国の文化交流をも促進することになるに違いない。

传存于上海地区的日本关系典籍略述

张　晓　敏

上海古籍出版社

1842 年 8 月 29 日，战败的清政府被迫与英政府签订了屈辱的《南京条约》，同意开放广州，福州，厦门，宁波，上海五个城市为开放口岸，第一次鸦片战争结束。从此，伴随着军舰和商船，外国人纷至沓来。起先，来华最多的是英国人，其次是葡萄牙人和美国人。日本人来华时间晚，但增长速度十分快。以上海为例，据统计，1870 年，日本人在租界及界外道路仅有 7 人，1880 年有 168 人，位居第三，1885 年 595 人，位居第二，1915 年长住居民已超过 2000，位居第一，且呈上升趋势。太平洋战争爆发后，更一度达到 9 万多人，。上海留下了众多的各类日文文献，至今，上海众多的文化机构和私人手中还保存有许多的日文文献。

以上海图书馆为例：上海图书馆收藏了大量各类旧日文文献。据新近出版的《上海图书馆馆藏旧版日文文献总目》一书统计：上海图书馆收藏的 1949 年以前出版的各类旧日文文献多达 8 万多种，其中 90%是各种图书，其余 10% 是一些日文旧期刊和非正式与非公开出版的印刷品。这些馆藏旧文献很多来自于 19 世纪下半叶至 20 世纪上半叶日本在华机构和日本侨民在上海开办的各类学校和各类图书馆中，比较著名的像上海日本基督教青年会，上海日本横滨正金银行，共荣会中央事务局，上海日本近代科学图书馆，上海日本儿童图书馆，南满州铁道株式分社图书馆，上海日本商业学校，上海日本寻常高等小学，上海第一，第二，第三，第四日本国民学校等。此外，实力雄厚的各类日资企业也留下了可观的日文图书。

上海图书馆馆藏的旧日文文献内容十分丰富，按照图书分类法来分，这些旧日文文献中，最多的文献依次是经济类文献，文学类文献，历史类文献，政治类文献。经济类文献最多，这与近代日本不断加深对中国的政治渗透，军事侵略，经济扩张有关。在馆藏旧经济类文献中，内容涉及当时经济生活的各个领域，文献形式也纷繁多样，既有图书，又有专题报告，年鉴年报，企业要览，经济指南，统计资料汇编等。经济类文献包括经济学，经济史，经济地理，世界经济，国际经济关系，中国经济，日本经济和欧美非等各国经济，经济计划，会计，审计，劳动经济，物资经济，企业经济，农业经济，贸易经济，国

家财政，货币，金融，银行，保险等所有经济领域。由于近代以来日本侨民的数量急剧攀升，上海出现了不少日文图书馆，收藏了大量日本文学作品，如“万叶集”的版本有60多种，“源氏物语”，“岩波讲座”，“芥川龙之介全集”，“武者小路实笃集”，“漱石全集”(夏目纯一编)等日本文学代表作品应有尽有。在上海图书馆收藏的旧日文文献中，以有关上海历史的文献，中国边疆地理，中国地方史志的文献价值最高。有关上海历史的文献集中在二个方面：一是研究租界与日本侨民的文献，如“上海共同租界法规全书”，“上海日本人各路联合会的沿革与事迹”，“上海居留民团三十五周年纪念产”，等等。二是直接反映上海“一`二八”和“八`一三”事变的文献，如“上海激战十日间”，“(昭和七年)上海事变”，“上海事变志”，“上海事变写真帖”，“上海事变战记”，“上海骚扰记”，等等。地方史志的文献中，反映东北，内蒙，台湾的文献都有数十种之多，如“台湾案内”，“台湾志”，“台湾事情”(昭和六年版，昭和七年版，昭和十三年版)，“台湾治绩志”，“台湾岛之现在”，“台湾文化论丛”，“台湾殖民政策”，“台湾殖民发达史”，“台湾统治概要”，“台湾历史考”，“南满洲写真帖”，“南满洲主要都市的其背后地”，“满蒙讲座”，“满蒙都邑全志”，“满蒙权益要录”，“满洲的开拓”，“满洲国有铁道沿线及背后地各县概况”，“满洲国境问题”，“满蒙血的清算”，“满洲国视察记”，“满洲开拓年鉴”，“满蒙新国家事情”，“满洲实录”，等等。值得一提的是，在这些文献中，有关中国边疆地理的文献涉及的地域极其广泛，包括西藏，新疆，云南，海南，东北等边疆省分在内的中国各地都有涉及，如：“西藏：过去与现在”，“西藏旅行记”，“西藏征旅记”，“西藏探险记”，“西康西藏踏查记”，“新疆纪行”，“左宗棠的新疆问题”，“支那疆域史”，“支那的蒙古”，“东蒙事情”，“支那边疆视察记”，“支那边疆概观”“云南省事情”，“支那黑龙江报告书”，“蒙疆资源经济”，“满苏国境乌苏里江流域调查书”，等等。反映了近代日本对中国全境的野心。

上海图书馆藏最早的一套日文文献 是“古今 名人棋经选粹”，此书由江都玄齐撰，青黎阁出版，宽政四年（1792）出版。全书分龙，龟，凤，麟四卷。是一本围棋实战棋谱。宽政九年（1797）出版的“东海道名所图会”，弗原喜兵卫等著，京都书林出版，全书共六卷。“伊势参宫名所图会”，“江户名所图会”，“金刀比罗宫风光图会”，“木曾路名所图会”，等等，都是一些线装，木刻，图文相间的古代日本地理书，详细记载了日本的风土人情，地产物貌，名胜古迹，具有较高的学术价值。

此外，上海图书馆还收藏有数百件日本古写经，珍贵的如“光明皇后写经”等，有待进一步整理。

除上海图书馆外，上海档案馆，复旦大学，华东师范大学，甚至像上海辞书出版社图书馆等出版社藏书机构，也不同程度，或多或少地藏有日刻本汉籍和旧日文文献。上海辞书出版社藏有各类和刻本汉籍38种。收藏的和刻本汉籍主要有这样几种：

唐六典(三十卷)　唐玄宗李隆基撰　李林甫注　明正德十年(1515)刻本

日本天保七年重刻

圣济总录(二百卷)　宋政和中撰　日本文化十三年东都医学活字本　据元大德本校印

医心方(三十卷)　日本康赖撰　日本安政六年写刻本

金匮玉函要略方论疏义(六卷)　日本喜多村　直宽士栗撰　日本文久纪元学训堂聚珍版

全唐诗逸(三卷)　日本上毛河世宁纂辑，男三灭，池桐孙，下田衡校　日本天明八年抄本

广韵五卷　(宋)陈彭年等重修　(清)黎庶昌辑　清光绪古逸丛书遵义黎氏据元泰定本景刊

黎氏家集　十五种四十卷　清黎庶昌辑　清光绪十四，十五年黎庶昌日本使署写刻本(其中丁亥入都纪程，千家诗注为活字版排印本)

上海地区收藏的各个时期的和刻本汉籍情况，据“中国馆藏和刻本汉籍书目”(王保平主编)统计，上海地区收藏和刻本汉籍最多的单位是上海图书馆，共藏有各类和刻本古籍313种，其次为华东师范大学图书馆，共有276种，再依次为复旦大学(120种)，上海师范大学(58种)，上海辞书出版社(38种)，上海中医药大学(27种)。据估计，在上海众多的各类文化机构和私人藏书家中，还应该有一定量的和刻本汉籍留存。

上海档案馆收藏着众多的上海地方历史档案，其中约有四千件为日文文献，内容主要为租界时期的历史档案和抗日战争时期的日文函，电等文书档案，以及一些未公开出版的日文印刷品。详细的资料有待进一步整理后发表。

复旦大学图书馆也收藏有四、五万种旧的日文文献，可惜因为种种原因，一直未得到很好的开发利用，这样的情况在其他一些图书单位不同程度地存在着。

中日两国一衣带水，同属亚州中文文化圈，两国特殊的地缘，政治，文化，历史关系，使得两国的文化典籍在对方都得到很好的传存，且这种传存呈现着一种极其密切的双向互动关系，深入地研究这种文化传存，必将进一步促进两国的文化交流。